



夢を抱き前線し続ける
富永啓生選手

自身の夢に向かって邁進する過程では、誰もが予期せぬ大きなカベにぶつかるものです。そんなとき、富永選手は「まずは『夢を持っている』ということ自体が何よりも大切です。僕の場合はバスケットボール発祥の地であるアメリカのNBAでプレーしたい、というものでした」と力強く語ります。夢を抱き続けるからこそ、挑戦の第一歩からです。

夢を持つことが
挑戦への第一歩となる

聞く! 逆境を楽しむことが カベを突破する原動力となる

トップアスリートに

アメリカの大学スポーツには、非常に厳しい独自のルールが存在します。それは、学業で一定以上の成績を維持し続けなければ、部活動の練習に参加することも、公式戦のコートに立つことも許されないというシビアなシステムです。

勉強も同じ
積極的な姿勢が道を切り開く

のだと自覚することが重要です」と教えます。そう認識していれば、高いカベに直面しても、「これを乗り越えた先にこそ自分自身の成長がある」と前向きに捉え直すことができるからです。困難を成長のための通過点とみなすポジティブな思考法こそが、未来を切り開くカギとなるのです。



富永啓生選手

バスケットボール
レバンガ北海道
2001年2月1日生まれ
愛知県名古屋市出身
年少時からバスケットボールを始める。高校では全国大会で活躍。卒業後アメリカへ渡り、NCAA(全米大学体育協会)1部に所属。卒業後はNBAの下級リーグでプレーし、2025年からBリーグのレバンガ北海道へ。現在、日本代表としても活躍中。

桜丘高校3年生だった2018年のウィンターカップ(全国大会)で得点王に輝き自信を深めた富永選手。そのシュート力を武器に挑んだアメリカの舞台で、彼は早々に高いカベに直面します。本場の選手たちの身長の高さとリーチの長さに、日本と同じ打ち方ではシュートがことごと

逆境を力に変える
挑戦の神髄

があれば、学業をサポートしてくれる先生のもとへ積極的に足を運び、自ら進んで熱心に質問を重ねました。富永選手は「勉強もバスケットボールとまったく同じで、周囲に対してどれだけ積極的に取り組んでいるかという姿勢を見せることが大事だ」と気づいたと言います。自ら進んで目の前の困難に向き合い、熱意を行動でしっかりと示すことで、文武両道の厳しいアメリカの大学生活を立派に乗り越えていったのです。

キミの夢は
どんな夢?



※1 全米大学体育協会 ※2 全米バスケットボールコーチ協会



「フェアプレーニュース」の
ダウンロードはこちらから

JSPO

フェアプレー★ニュース

FAIR
PLAY
NEWS
Vol.174

2026年9月28日発行

フェアプレーストーリー

夢に向かいポジティブに挑戦

バスケット
ボール

富永啓生選手

2018年の
ウィンターカップで
得点王に輝いた富永選手

高校卒業後は
バスケットボールの
本場アメリカへ
単身留学する
決断をしました

ことばや文化の違いに
不安はありましたが

夢を叶えるために
レベルの高い
環境に身を置くのは
必要なステップ

と迷わず
海を渡りました

まだアメリカでの
実績はなく
なかなかパスを
もらえません

そこでシュート力を
上げる練習を積み
上げていきました

「ボールが
来たらしゅーとを
決め続ける」
ことで確実に
仲間の信頼を
得ていきました

夢を持って
何かに挑戦すると
カベにぶつかるのは
当たり前

それを
乗り越えれば
成長につながる

ついにNABC
オールスターゲームに
出場

そして
3ポイントコンテストでは
日本人として
初の優勝を勝ち取りました

そんな富永選手の今の目標は
「NBA選手になること」

これからも夢を目標に据え
自分を追い込み
熱く挑戦を続けます

フェアプレーニュースは
JSPOホームページでチェック!



フェアプレー
7カ条

- ①約束を守ろう
- ②感謝しよう
- ③全力をつくそう
- ④挑戦しよう
- ⑤仲間を信じよう
- ⑥思いやりを持とう
- ⑦楽しもう

スポーツくじ
BIG
LOTTO
PUNK

フェアプレーニュース 第174号
2026年9月28日発行(次号は2026年10月19日発行予定です)
フェアプレーニュースは、スポーツくじの助成を受けて制作・配送をしています。
企業: JSPO(公益財団法人日本スポーツ協会) <https://www.japan-sports.or.jp/>

JSPO
Japan Sport Association